

(仮称) 埼玉中部資源循環センター整備事業にかかる説明会 議事録

日 時 平成30年6月3日(日)  
場 所 東公民館(ニュータウン江和井)  
会議時間 午前 9時00分から  
午前 10時30分まで

顛末

大澤主幹	1 開会
宮崎管理者	2 あいさつ
大澤主幹	出席者紹介
事務局	3 (仮称) 埼玉中部資源循環センター整備事業について
	4 質疑応答
質問者①	新しいごみ焼却施設ができることで周辺地区に住む人たちにどんなメリットがあるのか。現在吉見町では持ち込みごみは有料だが、東松山市は無料と聞いている。例えば、新しいごみ焼却施設では吉見町の持ち込みごみを無料になったりしないのか。
宮崎町長	要望書の内容から地域活性化に寄与する付帯施設が建設されることが地元のメリットであり、吉見町にとってのメリットでもある。
事務局	東松山市は定量を超える個人持ち込みごみはその分に応じた料金を徴収している。
宮崎町長	地元の意見として承りたい。
質問者①	吉見町は分別、収集のルールが厳しいと感じている。今後、分別区分に関わらず収集する日を月に1回程度でいいので設けていただきたい。
事務局	組合では構成市町村が分別収集、搬入してきたごみを適切に処理することを役割としている。したがって、分別収集のあり方は各構成市町村で決めていただく内容である。ただ、そういった意見を構成市町村で話し合う場は設けていきたい。
質問者②	新しいごみ処理場は現在の埼玉中部環境保全組合より処理規模が大きくなるのか。プラスチックを燃やす等分別を緩められないのか。
事務局	処理能力について、現在の施設は80トン/日×3炉、新施設は114トン/日×2炉であり、施設の規模はほぼ同じである。分別については既に構成市町村で話し合い資源化を最優先とし、資源化できないものについては焼却と整理している。ごみの個々の分別については今後協議の場を設けていく。新しいごみ処理施設では現在より分別を緩くする、簡単にするということにはなっていない。出来るだけ環境に負荷をかけない施設運営

	をしていく方針である。
質問者② 日本環境衛生センター 事務局	<p>大阪のごみ処理場はプラスチックを含めてなんでも燃やすと聞いた。新しい施設ではそれは出来ないのか。</p> <p>たしかにプラスチックを燃やしている団体もある。一般論として、国の考え方は3R（リユース、リユーズ、リサイクル）を推進しており、各団体でこの考え方に沿った方針をとっている。その中で、本組合では先ほどの事務局の説明のような考え方をとっている。</p> <p>社会情勢、経済状況、技術の発達等で今後変わることも有り得るが、まずはこれまでの基本方針のもとに進めていく。</p>
質問者① 事務局	<p>環境汚染が心配である。</p> <p>現在、現況の環境を調査している。この結果を基に工事中、建設後の環境を予測して評価する。この内容の詳細は、今年の夏から秋ごろに環境アセスメント準備書説明会の中で詳しくお伝えする。建設後の環境状況も事後調査する。</p>
宮崎町長	<p>排ガス基準値について、法基準よりも厳しい自主基準値を設けて周辺環境に配慮する。また今後、詳しい説明はさせていただきたい。</p>
質問者① 宮崎町長	<p>現在の埼玉中部環境センターの煙突から煙が出ている。 あれは水蒸気である。</p>
質問者② 宮崎町長	<p>周辺の農業従事者から環境についての心配の声は出ていないのか。</p> <p>今回の事業説明会でそういった声は出ていない。埼玉中部環境保全組合では周辺環境の調査結果を公表している。</p>
質問者② 宮崎町長	<p>農産物直売所は、道の駅が近くにあるから調整が必要ではないか。人口減少社会で時代の先に行く考えを持たなければいけないと思う。</p> <p>イチゴハウスへ熱供給する他事例を目にした。東第二地域の将来に寄与するような施設にしていきたい。まずは、5haの建設予定地の中を地元地域事業推進連絡会議等で決めて、その後周辺環境整備について検討する手順を進めたい。区長さんには、ぜひ今回の説明会の内容を地区に周知していただきたい。</p>
大澤主幹	<p>5 閉会のあいさつ</p> <p>— 以上 —</p>